



RI会長 ゲイリー・C.K.ホアン
第 2640 地区ガバナー 辻 秀和



2014-2015年 海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1809 回例会

平成 26 年 11 月 17 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. ゲスト紹介 「ミンダナオ子ども図書館」
松居 友 様ご夫婦 清水 様

4. 出席報告

会員総数 48 名 出席者数 27 名
出席率 56.25% 前回修正出席率 70.83%

5. 会長スピーチ



会長 山東 剛一 君
みなさん、こんにちは。本日はお客様としてミンダナオ子供図書館の松居友様と清水様、ご夫妻をお迎えしています。のちほど卓話ををお願いします。

ガバナズマンスリーレターの辻ガバナーの言を抜粋します。ロータリークラブの世界的連合体である国際

ロータリーの使命は、他者に奉仕し、高い論理的基準を促進し、事業と専門転務および地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。私たちロータリアンは、ロータリーの「エンジン」にあたるロータリー財団をしっかりと支えていかなければなりません。いずれにしてもロータリアンは「世界でよいことをしよう！」をスローガンとして、地域社会と世界で恥ずかしくない新世代の若者たちの模範となるような行動が常に求められております。他社に奉仕しつつ、自身も楽しくロータリー活動を推進いたしましょう。

先日も申しました通り、今月はロータリー財団月間です。先週FAXでお願いしましたようにロータリー財団特別寄付を1人当たり 200 ドル(少なくとも)

11月はロータリー財団月間です

も 100 ドル以上)をお願いいたします。(尚現在のレート:1 ドル=106 円となっています)この件に関しまして小椋財団委員長からもお話をあるかもしれませんがよろしくお願ひします。財団の目標には五つの事を決めています。第1の目標は地球上からポリオを撲滅すること、第2にロータリーの慈善事業を支援すること等です。

6. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君
例会臨時変更のお知らせ、休会のお知らせ等は、特にありません。

7. ゲスト卓話

ミンダナオ子ども図書館
松居 友 様

「ミンダナオ子ども図書館のスカラシップと里子支援について」

ミンダナオ子ども図書館は、フィリピンの南の端、ミンダナオ島にある現地法人NGOです。根幹をなす活動は、「読み語りと文化活動」で、子どもや若者たちが活動の中心を担っています。二次的活動として「医療」「スカラシップ里子」「子どものシェルター」「保育所建設」「植林支援」があり、状況に応じて「戦闘や洪水避難民救済・平和構築」の許可を得て活動しています。



ご存じのようにミンダナオは、イスラム教徒と先住民族と島外移民が、混交して来た 400 年の歴史があります。本来平和に暮らしてきたのですが、ここ 40 年に

わたり、開発による貧富の格差が広がると同時に、国際的な農業資源や鉱山利権を目的とした大小の戦争が起こされてきました。以外と知られていないのですが、国連の調べによりますと、ミンダナオは戦争避難民の数が、累計で世界一。その大きな犠牲になつてい

四つのテスト 言行はこれにてちしてから

①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山東 剛一 幹事：中西 秀文 SAA：山田 裕之

るのが、イスラム地域と先住民族の地域です。

MCLのスカラシップは、原則としてイスラム教徒、先住民族、移民系クリスチヤンを3分の1づつ平等に採用し、貧困撲滅と和平構築を目的に始められています。成績優秀者を探すのではなく、自ら極貧の集落や反政府地域に赴き、そのなかでもとりわけ不幸な境遇に置かれている子を採用します。第一基準は極貧で特に親のない子、片親の子、崩壊家庭



清水様

子供たち



の子で、第二基準が、親はいても極貧で生活に困窮している世帯の子です。MCLでは、彼らに、小学校から大学まで行ける可能性を提供しています。学校教育を主目的としたスカラシップではなく、大学まで行けると同時に、とりわけ不幸な環境に置かれた子たちが、読み語りや難民救済、植林などのボランティア活動を行い、その過程で学校教育では学べない地域の現実を学び、精神的に自立再生していくためと、そのような彼らに、幸せな未来の可能性を託すために作られた、ちょっと変わったスカラシップです。戦闘で避難民化していたり、極貧で現金収入がほとんどなく、病気になってしまって薬も買えず、学校にも行けず、日々の食事や服にも困っている子どもたち。そのような子たちを目の前にすると、どうしても放っておけない。それがスカラシップや医療、古着や植林プロジェクトを始めたきっかけでした。寄付の種類には、自由寄付、スカラシップ、里子支援、保育所・下宿小屋支援、植林支援、物資支援などがあります。詳しくはサイトで『ミンダナオ子ども図書館』で検索していただければ出でできます。

寄付は大学までの学費や、本部に住んでいる親のいない子たちなど、総計250名あまりの子たちの米代（一日100キロ以上の米が消費される）や下宿代、生活維持費、広範な活動範囲を支えるガソリン代や車の維持修理費。多くの僻村の子どもたちの、手術まで含む医療費（毎年140名ほど、総額180万円超。）特に、大規模な戦争や洪水が起こると、避難民の緊急支援や救済などに使っています。

ミンダナオ子ども図書館のスカラシップは、極貧の子たちの中でもとりわけ不幸な境遇の子たちに、大学まで行ってほしいと思って作ったプロジェクトです。しかし、全員が優等生でもないので、極貧状態から脱

して人並みな生活が出来、結婚して幸せになつてもらうことを目指して、進級進学出来ない子たちにも力を注ぎ、短期教育や縫製や大工、農業訓練や修理工、ドライビングの技術を習得させて、少しでも有利に社会に出ていけるようにしてあげてから、社会に送り出すようにしています。

ミンダナオ子ども図書館支援方法は、医療や読み聞かせ活動を支援して下さる方々の自由寄付。年五回、季刊誌『ミンダナオの風』と、時に特別号で絵本やDVDをお送りしています。年間140名を超える子どもたちの医療費、支援者がまだ見つかっていない子たちの学費（現在200名弱）、子どもたちの食費や生活費（ほぼ250名）。そして、読み聞かせに行った場所で、絵本の無い子どもたちに無償で届ける絵本の作成などに使われます。

スカラシップ支援は、成績よりも親のない子、母子家庭や崩壊過程の子、親がいても兄弟が多く学校にいける子を採用の基準とし、その中の特に何らかの事情で現地に置いておけない子は、本人の希望と保護者の了解で本部に住み、生活を保障し、大学まで通えます。奨学生は現在620名。本部に住んでいる子は、ほぼ120名。①大学生スカラシップ・・年額70,000円（月額5,833円、学用品と下宿代を加算）②高校生スカラシップ支援の方へ・・年額60,000円（月額5,000円、学用品加算）③里子支援（小学生）・・年額40,000円（月額3,333円。学用品、一部食費加算）その他支援として①保育所・下宿小屋建設支援・・40万円（建設費と建設後の修理代）②植林環境支援・・6万円（ゴムの木600本、1ヘクタール、現地作業代を加算）洪水対策と先住民族が土地を手放さないようにするための、自立支援です。③古着支援等。皆さんのご支援をお願いします。

詳しくはウェブサイト参照「検索：ミンダナオ子ども図書館」

<http://www.edit.ne.jp/~mindanao/mindanews>

8. 閉会点鐘



ニコニコ・BOX

山東 剛一 君	地区大会も終わり、予算も通りやつと順調に滑りだしました。
小椋 孝一 君	11月は財団月間です。皆様ご協力宜しくお願いします。
谷脇 良樹 君	ガバナー公式訪問の担当が無事終わりました。
山名 正一 君	40周年記念ゴルフの打合せを例会後します。お残り下さい。
P. P会一同	会の残金です。

次回例会

休会 平成26年11月24日(月) 振替休日

第1810回例会 平成26年12月1日(月)

年次総会 「美登利」18:30~

お誕生日、結婚記念日のお祝い